

に準拠する経過措置がとられていますからご安心ください。新版改訂テキストで新たに追加された歴史部分やコラムなどは、この経過措置のため出題されることはありません。一方、今までのテキストが出版された時の経過措置は解除されていますから、それ以上古いテキストは不利になりますので、ご注意ください。毎回10%以内とされているテキスト外の出題については、時事問題を押さえておく必要があります。例えば、今年は大船フラワーセンターがリニューアルオープンされたり、新たに市有形文化財が指定されるニュースがありました。これまでの傾向では鎌倉市のホームページ、主要な寺社のホームページなども出典になっているようですので、チェックしておいてください。そして、最近の傾向として境内図や写真を使った出題が増加している点にも注意が必要です。テキストで具体的に触れていなくても、さすがにこの建物くらいは見ればわかるでしょうといったスタンスから、建物の写真を使った問題がテキスト外として出題されるケースです。いずれにしても、1級の試験も今回で10年目になりますから、過去問の類似問題が出題される確率が高くなっています。入口と出口が逆になっていたりすると思われませんが、過去問題は必ず丁寧に確認しておいて下さい。

3. 4択問題

2・3級の設問のように単純に正誤を問う問題だけではなく、多くの問題に若干の工夫が施されています。例えば合戦とそれに関わる人物、作家名・画家名と関連する寺院名、邸跡と寺院名、仏像と寺院名、山号と寺名、開山や開基と寺名、歌碑や句碑と寺名、十井や五名水と寺名、建築物と寺社名、ハイキングコースと周辺に点在する物件などの組み合わせの正誤を問う問題が出る可能性があります。仏像については有名な仏像や伝説、ニックネームのある仏像、文化財指定という観点に加えて、七福神や十三仏と寺社名という観点を忘れないで下さい。また、特定の事柄や場所、人物などについて記述された文章がいくつかある中で、「以下の源頼朝について書かれた文章のうち、誤っているものは幾つあるか」といったように、正しいもの、あるいは間違っものが幾つあるかを4択で答えるような問題も想定しておいて下さい。この類の問題で、設問の流れはあっていますが、該当する寺名や氏名などの固有名詞だけが入れ替わっている場合が

ありますから特に注意が必要です。更に、年号をストレートに問う問題は今までほとんど出題されたことがありませんが、何人かの人物やいくつかの場所などを並べて、正しい順番はどれかといった問題も想定されます。執権の順番や有名御家人の時代順、寺社の創建年、主要な寺の有名な住職の順、戦乱の年代などの年代順を問う類です。いずれにしても、2・3級のように消去法で正解を導くのは難しいので、やはり正確で詳しい知識が求められることとなります。また、写真を見て答える問題が毎年出題されていますので、理想的には鎌倉を実地に歩くことをお勧めしますが、最低限テキスト掲載の写真や口絵とそのキャプション(写真を説明するために添えられた文字情報)については入念にチェックしておきましょう。「以下の写真のうち国宝に指定されているのはどれか」とか、「写真の寺にある文化財は以下のどれか」といった類いの問題です。特に注意が必要なのは、テキストの文化財の項目では、国宝についてしか説明していませんが、各寺院の項目では国重文が表記されています。国重文リストを作成しておいた方が安全です。また、記述式では以下の写真の寺社名や建物名を書きなさいといった類いの出題も考えられます。大寺院については、境内の塔頭名や建物名もチェックしておいた方が安心です。「○○○について述べた以下の文章のうち正しい(誤った)ものは幾つあるか」といった問題を想定して、4択にしやすい項目(2~3つしか重要点がなければ4択にしづらい)は読みこんでおく必要があります。

4. 記述式問題

あくまでも記述式の問題であって、論述式(○○○について述べよ)の問題は出題されません。具体的には、ある文章の中に何箇所かの虫食いがあり、そのカッコ内を埋める形式がこれまでの傾向です。虫食い2箇所を両方正解して2点の配点になっている問題については、片方だけ正解しても得点されません。また、設問によっては「漢字で記入せよ」などと最初に記述のルールが明示されていますので、見落とさないように注意してください。

「漢字で」と指定されている場合は、テキストに記載されている漢字を記入しないと得点されませんから注意して下さい。あまりに常識的なものを除いて、一般名詞は漢字でも、平仮名、カタカナでも構わないという設問になっています。一方、鎌倉に関係の深い人物や書名、地名などの固有名

詞を答えさせる場合に、漢字で記入せよという指示が入っています。そこで、“佛”日庵、“圓應”寺などのように、テキストでの表記が旧漢字になっている名称をチェックしておくのは当然ですが、“化”粧坂ではなく“仮”粧坂、朝“比”奈ではなく朝“夷”奈など、テキスト準拠の表記や、他にも“太”平記、“大”平山のようにまぎらわしい文字や、甘縄神明“神社”のような固有名詞を明確にしておく必要があります。七切通の名称について「坂」と「切通」が混在していますから注意してください。また、史跡指定名称が「切通し」ではなく「切通」となっている点も注意が必要です。また虫食いの箇所が(oo)“寺”となっているところに(建長寺)のように記入してしまうと、結果として建長寺“寺”のように“寺”の字が重複してしまいますので注意して下さい。その他では船“おろし”と船“祝い”、“潮”神楽と“汐”まつりなど、まぎらわしい名称を正確に書き分けられるようにしておきましょう。ルビ(ふりがな)振り問題については、散在ヶ池(さんざがいけ)、仮粧坂(けわいざか)、十二所(じゅうにそ)、筋違橋(すじかえばし)、白鷺池(びやくろち)、神戸川(ごうどがわ)、小動神社(こゆるぎじんじゃ)、大巧寺(だいぎょうじ)、錦屏山(きんぴょうざん)、鷲峰山(じゅぶせん)、九品寺(くほんじ)、葛原岡神社(くずはらおかじんじゃ)、補陀洛寺(ふだらくじ)、光触寺(こうそくじ)、鉄ノ井(くろがねのい)、底脱ノ井(そこぬけのい)、手斧始式(ちょうなはじめしき)、草鹿(くさじし)、大注連祭(おおじめまつり)のような、誤読しがちな単語を捜してチェックして下さい。また、難読の文化財名(例：籬菊螺鈿蒔絵硯箱、初音蒔絵火取母、葡萄蒔絵螺鈿聖餅箱、当麻曼荼羅縁起絵巻など)も注意してください。ルビ振り問題では、人名はこれまでに三浦大介義明(みうらおおすけよしあき)以外に出題されたことはありません。

5. 効果的対処法

有名寺社(鶴岡八幡宮、鎌倉宮、建長寺、円覚寺、東慶寺、覚園寺、瑞泉寺、光明寺、壽福寺、高德院、長谷寺など)についてはキーワードを関連づけて覚えておくと効果的だと思われます。建長寺を例にすると、日本初の禅専修道場、鎌倉五山第一位、開山は蘭溪道隆(大覚禅師-日本初の禅師号)、開基は第五代執権北条時頼(鉢の木伝説)、梵鐘は国宝で物部重光作(鎌倉三名鐘)、地獄谷(心平地蔵)、法語規則(国宝)、ビヤクシン(開山お手植え)、葛西善蔵『おせい』、半僧坊大権現(烏天狗)などがつながっていれば

解答のヒントになると思われます。加えて、国指定史跡なども確実に記憶しておきましょう。「以下の七切通のうちで国史跡に指定されていないものはどれか」といった類の設問が考えられます。また、主要な歴史上の人物(源氏三代、主要な執権[1・2・3・5・8・9代]、主要な足利氏、名僧など)についても、同様の勉強法をお薦めします。どちらの例も、歴史・寺社・文化財・文学など、複数の章にまたがっている項目があるため、このように一度整理しておくとう効果的です。さらに、出題者が実際に問題を作成するときのことを考えると、別称やニックネームのある寺(竜巻寺・アジサイ寺・コケ寺など)や伝説が残されている仏像(頬焼阿弥陀・身代わり地藏・矢拾地藏など)などは設問を作りやすいので要チェックと思われます。植物に関連した設問では、各植物を代表する寺社(たいていは各植物の項の最初の方に記述されています)や、英勝寺のヤマブキのような伝説や史実にまつわる植物、固有名称のある植物(覚園寺の太郎庵・英勝寺の侘助・荏柄天神社の古代青軸・安國論寺の源平枝垂れや妙法桜・瑞泉寺のオウバイなど)も設問を作りやすいため、出題されやすい傾向が見られます。玉縄ザクラのように固有名称が複数ある植物は、それだけで一問作成できますので要注意です。その他では、滑川なら上流から順番に七つの別称、ハイキングコースなら起点と終点、沿線の史跡など、文学では書名、作者、関連寺社などを整理しておくとう良いと思われます。また、名誉市民(初代、女の初代、最新)なども一応頭に入れておきましょう。最後に見落としがちですが、口絵とそのキャプションにも十分注意してください。

【Q&A】

Q：ぼんぼり祭の説明分で、「鎌倉在住の著名人が手書き」とあるが、実際はこれに鶴岡八幡宮にゆかりのある鎌倉外の著名人も加わっている。

A：原則として鎌倉在住の文化人としてスタートしているが、鎌倉に松竹撮影所があった時代に鎌倉外在住の俳優にもお願いしたなど、さまざまな事情で鶴岡八幡宮にゆかりのある人が加わっているのはご指摘の通りです。主要な人について触れ、一部を文章の流れで省略しているということです。いずれにしても検定の解答には影響を与えないものと思います。

Q：建長寺の開山忌の日程について、新版テキストでは以前の日程が、新版改訂テキストでは新しい日程になっている。両方正解になるのか。

A：新版テキストは、何年も使用しているテキストですから、その間にさまざまな変更もあります。開山忌の日程については、変更になった時点で商工会議所のホームページ上の正誤表で訂正をしています。その他の部分についても正誤表に記載されている項目は、それがテキストの記述とみなされますから、必ずチェックしておいてください。

Q：新版改訂テキストの行事の項目で潮神楽の開催地が由比ヶ浜となっているが、行事一覧では材木座海岸になっている。不統一ではないか。また、どちらが正解となるのか。

A：表記不統一であることは事実で、好ましいことではないと思います。ただ、材木座海岸や坂ノ下海岸と由比ヶ浜の関係には諸説あり、滑川を境に西側を由比ヶ浜、東側を材木座と呼ぶという説もあります。一方、このテキストでは材木座から稲村ヶ崎までの全体を由比ヶ浜と呼び、その一部を材木座海岸や坂ノ下海岸と呼ぶという立場をとっています。したがって誤記とまではいえません。つまり、どちらも正解になります。

Q：解答がテキスト準拠を正解とする原則はわかるが、今までの新版テキストと新版改訂テキストの記述が違う場合には、どちらが正解になるのか。

A：新版テキスト発行後に変更になった部分もありますし、誤りを正した部分もあります。ただ、ホームページ上の正誤表で誤りを正した部分はそれをテキストの記述とみなした上で、新旧テキストで違った表現になっている部分についてはどちらも正解としますので安心してください。